

# 業績管理を目的とした人的資源評価の実務に関する考察

—Oxford United Football Club Limited の事例—

角田幸太郎

Kotaro SUMITA

## 事業目的

本事業目的は、科学研究費補助金（平成28年度・若手研究（B））に申請するための基盤となる研究を行うことであり、それは、プロスポーツ業界における企業内部の業績管理を目的とした人的資源評価の実務を見出し、考察を行うことである。

（理由）：プロスポーツ業界における選手は、企業において経営上も会計上も大変重要で価値ある資源であるが、評価の実態は明らかではない。業績管理を目的として、企業内部では人的資源について何らかの評価を行っている可能性があるが、企業はそのような社外秘ともいべき情報を取って企業外部に向けて公表する理由はない。それゆえ、人的資源会計の先行研究は数多くあるが、プロ選手の業績管理の実務を明らかにしたものはない。

「人的資源である選手の潜在的能力（サービス・ポテンシャル）に価値を見出して売買を行うこともあるプロスポーツ業界において、企業内部では人的資源を如何に評価して業績管理に結び付けているのか」という関心の下、先行研究を調査したが見当たらなかった。Jリーグクラブに研究を求めたが、企業内部の人的資源評価に関わる情報の提供には難色を示された。研究対象として適切な日本国内の企業が見つからない中、英国でプロサッカークラブを運営するOxford United Football Club Limited（以下、OUFC Ltd）からは、調査に協力し、内部資料を提供したりインタビューに応じたりしても良いという承諾を得られた。

## 事業実績

2014年3月と8月に英国オックスフォードにあるOUFC Ltd 本社へ出向き、人的資源の業績管理に携わっている様々な立場の方々へインタビュー調査を行った。公開情報からは知り得ない、人的資源評価の実務に関する貴重な証言

を得ることが出来た。

2014年3月のインタビュー調査時に「各試合の選手別業績データや映像分析データは今年度から導入した。今後は業績管理ツールとして利用し、選手の意欲向上や、契約交渉にも用いる」という話を伺った。新たな業績管理ツールの導入により、選手の意欲は高まったか、チーム成績に結び付いたか、企業の経営成績は改善したか、如何にして定量評価を貨幣評価に変換したのか等、2014年8月に行った再インタビュー調査では新ツール導入後の変化について伺った。また、各試合における選手別業績データの提供を受け、それは人的資源評価を行う際の基礎データとして用いられるであろう、社外秘の情報であった。

インタビュー調査やデータ分析から得られた成果については、日本管理会計学会九州部会（2014年7月26日、九州大学箱崎キャンパス）や会計理論学会（2014年10月12日～13日、関西大学千里山キャンパス）、九州経済学会（同年12月6日、九州大学箱崎キャンパス）で報告した。論文は2015年2月末時点で2本投稿中である。



左：CEO である Mark Ashton 氏とスタジオ前撮影



下：Michael Appleron 監督（右端）と選手達と練習場の中で撮影